

## 2016 年度立命館大学校友会東日本大震災復興支援事業

### — 東北応援ツアーレポート —

#### 「現地を訪問して想うこと」

参加者氏名：吉川健一

卒業年：平成2年（1990年）    卒業学部：文学部（地理学科）

震災から約半年後に一人で被災地（宮城・福島）に赴いたものの、もどかしさだけが残っておりましたが、5年経過したことに焦りの様なものを感じ、応募し参加させていただいた次第です。

これまで校友会活動に参加したことはありませんでしたが、校友会事務局をはじめ、宮城県校友会、震災復興委員他の皆さまに温かく迎えて頂きました。

そして、ツアーの中では様々なご証言がありました。

南三陸町では、気仙沼向洋高校の岸先生から（“SOS”を人文字で発信、72時間分の食料・飲料水の重要性、“ファーストペンギン”の勧め他）、移動車中で河北新報・大泉さんから（防災意識の重要性・常備防災品の紹介等、インターン〔職場体験等〕の紹介他、ささ圭の専務（社長の奥様）から（震災後の5つの被害、間違った思い込み、会社・街の復興に向けた道のり他）、木の屋石巻水産社長から（復興に向けた実際の取り組み方他）、『閑上の記憶』での語り部の方の証言 等々

初めて目に、耳にすることばかりでしたが、証言された皆様が、自ら率先垂範し、震災に毅然と立ち向かい、未来に向けて防災・減災に向けた取り組みの重要性を語っておられたことが深く印象に残りました。

私事ですが、建設会社に携わる者として参加し、会社が名取市の復興事業に参画していること、弊社OB（阿部直さん：故人）が昨年まで宮城県校友会でツアーに参加していたことにご縁を感じずにはいられませんでした。閑上の小中一貫校建築工事にも弊社が関わらせていただいているようです。

現地出身者・在住者ではありませんが、今後も私なりに証言者として語り継ぐことが出来ればと思います。本当にお世話になり、有難うございました。